

小学校「特別の教科 道徳」での活用について（学習指導要領との対照表）

メインEラボ・スペース

このたびは、本教材をお手に取っていただきありがとうございます。近年、道徳科でのソーシャルスキルトレーニングの活用が増えていることに鑑み、指導の一助となるよう、小学校学習指導要領との対照表を作成いたしました。指導要領解説道徳編の「内容の取扱い方（第3章 第1節）」に、「具体的な状況で道徳的行為がなされる場合「第2 内容」に示されている一つの内容項目だけが単独に作用するということはほとんどない」と記されている通り、本表でも一つのストーリーに対し複数の「内容」を挙げております。ただ、その他の観点との関連を踏まえた指導も考えられますので、あくまで一例としてご活用ください。なお集団での指導例については、本教材の各編の「取り組みの流れ」に掲載してあります。

■ 対照表（第3学年及び第4学年）：分類の数字は学習指導要領解説編に基づいています（裏面も参照）

改正指導要領の分類		特別の教科 道徳 第3章 第2節 内容項目の指導の観点（第3学年及び第4学年）											
		A(1)	A(2)	A(3)	A(4)	A(5)	B(6)	B(7)	B(8)	B(9)	B(10)	C(11)	C(12)
1	集中しすぎると…			●	●				●			●	
2	切りかえられる？				●	●						●	
3	本当の気持ちは…	●			●		●		●	●	●	●	●
4	やるべき時に			●	●	●	●					●	
5	どうしてやるの？				●							●	
6	うそをつくと…		●		●							●	
7	ズルして勝ちたい？		●		●							●	
8	ものをもらったら				●		●	●	●			●	
9	ふざけ？ 本気？				●				●			●	
判断力アップ講座		C(11)がベースとなりますが、ショートストーリーごとにそれぞれ対応する「内容」は異なります。											

■ 対照表（第5学年及び第6学年）：分類の数字は学習指導要領解説編に基づいています（裏面も参照）

改正指導要領の分類		特別の教科 道徳 第3章 第2節 内容項目の指導の観点（第5学年及び第6学年）											
		A(1)	A(2)	A(3)	A(4)	A(5)	B(7)	B(8)	B(9)	B(10)	B(11)	C(12)	C(13)
1	集中しすぎると…	●		●	●							●	
2	切りかえられる？	●	●		●	●						●	
3	本当の気持ちは…				●		●		●	●	●	●	●
4	やるべき時に	●		●	●	●	●				●	●	
5	どうしてやるの？		●		●							●	
6	うそをつくと…		●		●		●					●	
7	ズルして勝ちたい？		●		●		●					●	
8	ものをもらったら				●		●	●	●				
9	ふざけ？ 本気？				●		●					●	
判断力アップ講座		C(12)がベースとなりますが、ショートストーリーごとにそれぞれ対応する「内容」は異なります。											

■資料

【第3章 第2節 内容項目の指導の観点（第3学年及び第4学年）（抜粋）】

A 主として自分自身に関すること

- (1) 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。
- (2) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。
- (3) 自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度ある生活をする。
- (4) 自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。
- (5) 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。

B 主として人との関わりに関すること

- (6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
- (7) 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
- (8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。
- (9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
- (10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

- (11) 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守る。
- (12) 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

【第3章 第2節 内容項目の指導の観点（第5学年及び第6学年）（抜粋）】

A 主として自分自身に関すること

- (1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。
- (2) 誠実に、明るい心で生活すること。
- (3) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。
- (4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
- (5) より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。

B 主として人との関わりに関すること

- (7) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。
- (8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。
- (9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。
- (10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
- (11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

- (12) 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。
- (13) 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。

【第4章 第3節 指導の配慮事項 3 児童が主体的に道徳性を養うための指導（一部抜粋）】

授業では、学習の始めに児童自らが学びたいという課題意識や課題追究への意欲を高め、学習の見通しなどをもたせることが大切である。道徳科においても、それらを踏まえ、教材や児童の生活体験などを生かしながら、一定の道徳的価値に関わる物事を多面的・多角的に捉えることができるようにする必要がある。さらに、理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることが望まれる。

※ 本紙は「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」（文部科学省 平成29年7月）に基づいて作成しています。